

ひと、くらし、  
みらいのために

# せみね監督署だより

発行 瀬峰労働基準監督署(栗原市瀬峰下田50-8, 電話0228-38-3131)

## 令和元年労働災害発生状況（速報値）

労働災害発生状況（令和元年12月末現在）（平成30年は確定値）

	管内（登米・栗原）被災者数		県内被災者数	
	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年
休業4日以上	119	146	2182	2368
死亡	1	3	17	21
製造業	26	35	422	463
建設業	20	25	332	315
運輸交通業	12	7	356	347
商業	18	22	377	418
保健衛生業	20	26	217	232

昨年の労働災害発生状況の速報値が出ました。

瀬峰署管内では全体で119名と速報段階で18.5%の大幅減となりました。死亡災害は4月に発生した建設業における重機による巻き込まれ災害の1件です。

宮城労働局全体でも7.9%と大きく減少しております。

管内の業種別で見ますと、運輸交通業（71%増）を除き大きく減少しています（製造業25.7%減、建設業20%減、商業18.2%減、保健衛生業23.1%減）。

運輸交通業の災害で顕著なのは「荷台などからの墜落・転落」でした。建設業のような高所ではないもののその分の気のゆるみなどで足を踏み外し転落する、荷台の掃除中に足を滑らせたなど典型的な災害が多くなっています。

保健衛生業では、「動作の反動・無理な動作」による腰痛が多く発生しています。特に社会福祉施設に置かれては適切な腰痛対策の徹底をお願いいたします。

今年も暖冬傾向で転倒災害のおそれが少ない冬とはなっていますが、いつかは雪が降りますし路面も凍ります。慣れない凍結路面での交通事故や会社駐車場での転倒事故に十分注意してください。

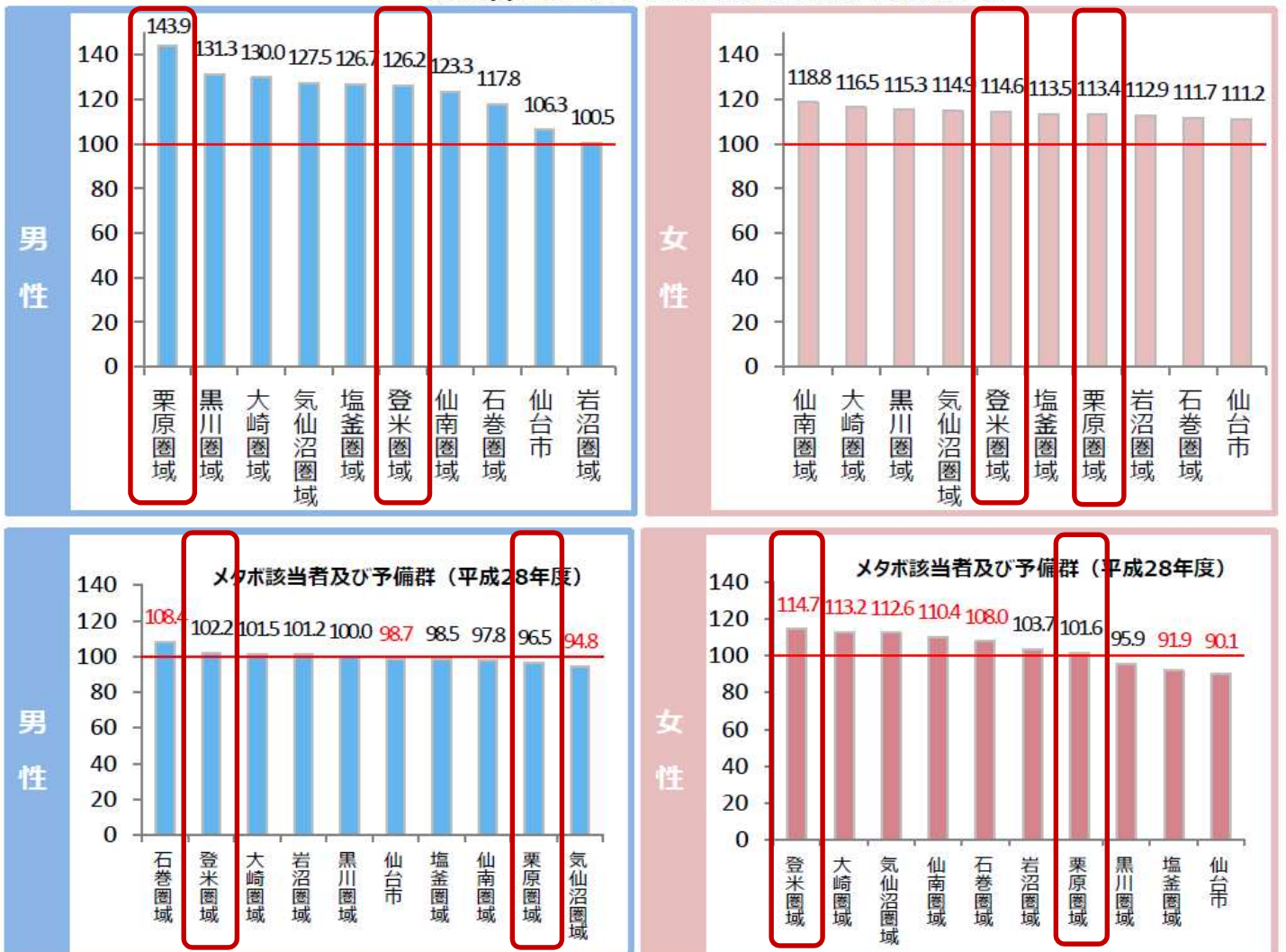
確定値については新年度以降お知らせいたします。

# 栗原・登米地区の健康状況について

（平成28年宮城県による調査）

平成30年の瀬峰署管内の一般検診実施結果による有所見率は**61.1%**と宮城労働局管内の**60.7%**を超え、かつ全国の**55.5%**に比べて大変高値となっています。管内に特徴的な結果を載せていますのでご確認いただき、健康で安全な職場づくりに向け、事業場においても健診結果有所見率の改善に向けまい進していただくようお願いします。

脳血管疾患 標準化死亡比EBSMR（平成28年）



脳血管疾患の死亡比（全国を100とした）については「栗原圏域の男性」が143.9と突出して多く、「登米圏域の男性」も県内では中位だが126.2と全国に比べて突出しています。

メタボ（宮城県を100とした）については、「登米圏域の女性」が114.7と県内では1番悪い結果となっており、「登米圏域の男性」も2番目と、登米圏域の状況の悪化が目立っています。